

あすなろ通信 31号

編集 NPO法人みよし子育て・学び支援あすなろ

事務局：〒728-0006三次市島敷町3番地7

(Tel 0824-55-6301 Fax 55-6302) 発行日2017年2月3日

うまくいかなかったても、
やったことは全部、将来の自分のプラスになります。

孫 正義

黒田先生との思い出

新理事長 松本信司



松本が新理事長として頑張らせていただくことになりました。

私と黒田先生との出会いは、黒田先生が一八八九年八次小学校に赴任してこられ、私が転勤するまでの四年間、一緒に過ごしてきました。

黒田先生が八次に来られて三年目に八次小学校では文部省の同和教育研究指定校を受け県内の小学校に呼びかけ教育研究会を開催することとなりました。目玉は地域教材を使った授業公開と、全校児童で歌う音楽発表です。ある日の朝、校長室に呼ばれ「今年開催する研究会の日、全校合唱の指揮者は、松本さん貴方がやるように！」という突然の話です。いくらかの抵抗は試みてみましたが、まったく受け入れられずあえなく指揮者を引き受けることとなりました。

私も小学校の教員ですからいくらかの音楽の知識はありますが、大勢の観衆の前で指揮者をするなんて考えられないことです。その日から指揮者の修行の旅にでることとなりました。駒沢教頭先生（元中学校の音楽の先生でした）の家にいき指導を受けたり、当時全校合唱で有名であった世羅町大田小学校の研究会に行ったりしていました。週一回ある全校音楽朝会の日には、誰にも聞かれない様に朝早く出勤して教室でオルガンとカセットテープを使って一人で歌と指揮の練習をしていたことを今でもよく覚え

ています。黒田先生がどれ程の音楽知識があるのか知りませんが、よく言われたことは「子ども一人一人の目が輝くように、全身で指揮を」ととても辛い日々が続きました。

全校合唱で関心したことは、研究会が迫った一ヶ月くらい前から、黒田先生と数人の職員で体育館に全児童が立つ雛壇を作っておられたことです。ビールの空き箱を酒屋さんにお願ひし借りてきたり、コンパネを購入したりして、子ども一人一人の唄っている顔が見えるようにとありとあらゆる物を駆使して作っておられました。当時八次小学校の児童数は六〇〇人を超えていたと思います。その六〇〇人の児童の顔が何処からでも見えるようにということですから、ビールの空き箱やコンパネや椅子・机等々どれくらい必要か想像がつくと思います。学校職員全員がそれぞれの立場で同じ目標を共有し実践していくことがいかに大切かわかりました。

格差社会の中で

黒田先生があすなろ塾を立ち上げて六年が経ちました。子どもたちを取り巻く環境は格差社会（所得格差）の中で日々不安定な状況が続いています。親が貧乏しなければ子どもも貧乏い、まさに貧困の連鎖です。貧困の連鎖は子どもの日々の生活を蝕んでいます。具体的には、食事が十分満たされていなかったり、十分な教育が受けられなかったり、等々です。

この様な状況の中で、黒田先生を中心に心ある皆さんが過疎少子化のまちに、子どもたちの学びの場を、と設立されたのがNPO法人みよし子育て・学び支援あすなろです。

これからも黒田先生の設立趣旨を大切にこの格差社会の中で学力支援・居場所づくりを何とか成し遂げたいと思っています。多くの支援者の皆様。今後ともご支援の程よくお願いいたします。



NPO法人あすなろ・賛助会員募集

賛助会員：ボランティア活動はできないが、寄付金等でご協力いただける企業や個人。

個人年会費：1口(5,000円)以上

企業等年会費：1口：(10,000円)以上

特典：あすなろ通信送付（年4～5回発行）

問合せ：あすなろ通信の発行住所と同じTEL・FAXとも。

新しい年を迎えて

あすなる塾 講師 守本 秀樹



現職時代から、英語の授業の生徒や担任したクラスの子どもたちにいつも送ってきた言葉がある。それは「精神一到何事か成らざらん」という日本語の格言に当たる英語で、**Where there is a will, there is a way.** である。直訳すると、「意志あるところに道がある。」となり、やる気になれば必ず達成できる方法があるという意味になる。世の中には、意志だけではなかなか達成できないこともある。目の前に立ちはだかる壁を自分の力で突き破ろうと努力することから道が開けるという意味でもある。

あすなる塾の教室には、「自分の進路は自分で拓いてください！応援しています」という支援者からの言葉が掲げている。

あすなる塾の子どもたちは、この精神を身に付けてつとめると日々実感している。新しい年を迎えて、塾生たちに「今年の抱負」という題で作文を課した。紙面の関係ですべてを掲載することは不可能だが、子どもたちが、新年を迎えるにあたり、この一年を振り返りながら、自分たちの課題を見つめ、その克服のための決意を新たにしていることが伝わってくる。

高校受験を目前にした三年生の作文から

◇二〇一七年は受験に向けて、毎日しっかりと勉強していきなさいです。受験まではあつという間なので、あとで後悔しないように何事にもあきらめずに取り組めます。そして、勉強だけではなく面接も大事だと思っています。自分は人見知りなので何回も面接練習をしていき、本番でしっかりと自分の思いを伝えられるようにしたいです。

私は将来、保育関係の仕事をしたいと思っています。そのために高校では、多くの資格を取得して将来の夢につなげていきなさいです。

自分はとても勉強が苦手でテストの点数が悪いので、受験に向けて不安ばかりですが、負けないように頑張ります。自分の行きたい高校へ行けるように、ノートをわかりやすく書いたり、小さいことでも工夫して、少しでも、自分のために役立てたいです。

塾だけじゃなく、家でも時間を決めて勉強したいです。

◇今年、三年生にとって、とても大切な年になる。なぜなら自分の進路が決まるからだ。

それぞれの志望校に受かるために勉強をがんばらなければならぬ。新年を迎え



てからはあと三ヶ月と常に思ってしまう。入試が早く終わってほしいという気持ちとまだ勉強しなさいという二つの気持ちがある。

入試に対する不安はなかなか解消されない。自信を持つことができない。勉強しても無駄といった思いになってしまう。しかし、そこはメンタルを強くし打ち勝つしかない。高校に入ることができれば楽しいことがあると自分に言い聞かせて、勉強を残り三ヶ月必死に頑張っていこうと思う。そして、志望校に合格して、楽しい高校生活を送りたい。

続いて二年生の作文から

◇僕の今年の目標は学校の行事に積極的に参加することです。

それは、去年ボランティアなどに参加しなかったし、文化祭での合唱でもいい結果が残せなかったからです。それと、今年から三年生になるので、学校を引っ張っていかないとけないと思ったからです。

・・・中略・・・

僕はまず、三年生になる前に委員会に入ってもらって学校の行事に参加しようと思います。そして、一年生の見本になれるよう頑張っていこうと思います。

◇私の今年の目標は二学期よりも成績を上げることだ。

なぜならば、二学期はテストの点はよくても提出物をあまり出していないで成績が下がっていたからだ。ちゃんとすれば提出物は出せるのに「たいぎー、めんどくさい」と、本気を出して取り組んでいなか

った。先生にも、「提出物を頑張ればもっと上がるのに。」と言われて、正直ちゃんとしとけば良かったと後になって後悔した。しかも、塾で受けた模擬試験では、前回よりも少し下がっていたし、自信のある英語でもあまり良い点が取れていなかったのだ。私は今回の二つの結果を見てこのままだと高校に行けないかもしれないと思い、努力すると決めた。

・・・中略・・・

テストの点だけじゃなく、提出物も「めんどくさいからやらない、遅れて出しても大丈夫でしょ」という自分勝手な気持ちを捨てて、三年生になっても後悔しないように今年の始めのうちに改善したい。そして塾でも学校でも喜ばれるような結果を出したい。

最後に一年生の作文から

◇私の二〇一七年の目標は、まだ早いが自分の行きたい高校を決めて、勉強を頑張るということです。

理由は、三年になるとやることも増えてゆつくり決めることができないからです。今、行きたい高校を決めておけば早くから勉強を頑張れると思います。

・・・中略・・・

早く行きたい高校を決めて勉強を頑張りたいし、その高校についてもっと知っていきたいです。どんなにつらくても最後まであきらめずやっていこうと思います。

◇・・・前略・・・

私は今年小学校を卒業して中学校に入学した。小

学校の人たちと別れて一人で入学した。怖くもないし、ドキドキもなかった。まだ他にもある。とりあえず二〇一六年を振り返って、例える一言は、「つらい」しかなかった。

なぜつらいのか、部活の練習がきついのだ。体力がないのももちろん、私は初心者だからどうしてもみんなの足を引っ張ってしまう。勉強でも分らないところが増えたり、宿題が終わらないなど、たくさんつらいことや、後悔があった。でもつらいからこそ逆にがむしやらにがんばった。

他のみんなには分からないのであろうが別によかった。自分がそれなりにがんばったならいい。逆に努力をする人をバカにしてあざ笑う人の側になってはいけない。つらいから足を止めてしまうのはいけない、いつか同じ過ちを繰り返すから。

そんなことを思っていると二〇一六年は終わり、新しい年が始まっていた。私はもうこのことを振り返るのはやめた。今は前に進もう。

振り返っても後悔とつらいことしか残っていないのだから。

「礼に始まり、礼に終わる」を大切に

思うように勉強がはかどらないもどかしさや、部活の頑張りが成果として現れなかった悔しさを素直に見つめ、今年こそはと決意を新たにする子どもたち。自分で自分の道を切り拓こうとする子どもたち。姿に私たちは胸を熱くし、支援、協力を惜しまぬという思いを強くするばかりである。

あすなる塾では、初めの会、終わりの会を実施し、

掃除を日課に組み込んでいる。「礼には始まり、礼に終わる」を大切にし、声を出して挨拶しようと指導している。塾だけの姿では子どもを十分に理解することはできないと考え、家庭訪問もし、学校行事や部活の対外試合なども応援に出かけた。子どもたちの新たな輝きを発見することができ、学習指導にも生かすことができたと考えている。

学力に差はあるものの、それぞれの子どもから「分かりたい」という切実な気持ちが伝わってくる。あすなる塾は、そんな子どもたちの自らすすんで学ぼうとする意欲を大切にし、支援を続ける。



岩

「I was born」(吉野弘)という詩がある。英語では「生まれる(た)」という言葉を受身形で表現する。

そのことから詩の中の息子は、単純に「生まれる」ということは「させられる」ことなのだろう。それを聞いた父親は蜉蝣(かげろう)という虫にまつわる話を通して「生まれる」「生きる」ということを息子に考えさせようとする。そのような詩である。

私がこの詩と出会ったのは二〇歳代後半。今から約四〇年前のことである。ちょうどその頃、私は部落差別をなくすための生徒のクラブである「解放研」の顧問をしていた。そしてこのクラブに所属していたある被差別部落出身生徒が「私は生まれてこなければよかった」「私の子どもも差別されるのだから絶対に子どもなんか産まない。結婚もしない」と泣きながら話していたことを思い出す。

結局その生徒とはこの詩に絡めての話はできなかったが、この頃の私は次のように考えた。

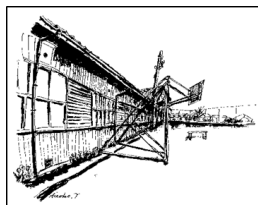
人間は二度生まれる。一度目は生物としての誕生の時。両親の精子と卵子が結合し、そこからまるで生物の進化の過程をたどるような変化を経て、人間の赤ん坊は誕生する。この時は「生まれる」「生まれさせられる」という両面をもっている。ところが、子どもは両親を選べるわけでもなく、両親やそれにつながる様々なものを背負って誕生する。しかし、これらのものの一切を自分自身として背負い、自分を生きようと決意したとき、人間の二度目の誕生がある。この時はまぎれもなく「生まれる」のである。

ただ今の私は、人間は三度生まれると考えている。人間はいつかは死ぬ。その死に向かっていかに生きるか。別の言い方をすれば、いかに死ぬか。そのことが確立したとき、人間は三度目の誕生をする。もちろんこの時も「生まれる」のである。

二〇一四年三月に高校の教員を定年退職した。それから二年、再任用の教員として勤めてきた。そして二〇一六年四月、あすなる塾の講師を始めた。世の中の格差や差別をなくすために少しでも役に立てばとの思いからだ。これが果たして自分にとっての三度目の誕生になるのか。今はまだわからない。

新年にあたり、あらためて以上のことを考えた。ともあれ二〇一七年は始まった。今年もぼつぼつ頑張ろうと思う。

(影山)



《ちよつと嬉しい話》

影山・守本先生には大変頑張って頂いていることに、心より感謝します。最近土曜日に塾の前を通ると、先生方の車が止まっています。中に入ってみると三年生の生徒が勉強をしています。朝から一日中受験に向けて頑張っているとか。先生方も一日付き合っ指導しておられました。

「生徒が頑張っているのに、指導者が知らん顔は出来ない。」と影山先生。あすなる塾の生徒は本当に幸せだと実感しました。

松本

2017年度 塾 生 募 集

あすなる塾 中学部

- 少人数&個別指導で学べます。
- コースは2種類。
 - ◇ 英数コース (週2回)
 - 月 14,000 円
 - ◇ 理社コース (週1回)
 - 月 6,000 円
- 授業料減免措置があります。
 - ◇ ひとり親家庭は半額免除
 - ◇ 生活保護家庭は全額免除

入塾受付

期間 3月1日(水)～3月3日(金)
 時間 16:00～18:00
 場所 あすなる塾

- 電話でも受け付けます
- 0824-55-6301

